

13.11.23～24 両神山山行報告書

M3 荒川 晶

①参加者

S61 卒 吉筋正雄先生 M3 荒川 M2 田中

②コースタイム

11/23(土)

日向大谷 06:20～06:40 腰越の滝 06:45～725MP～900MP～1130M 岩 ～1280M 倉沢の頭～11:00 辺見岳北峰 11:50～辺見岳南峰 12:00～13:50 エビヅルノ頭 14:00～14:35 三笠山 14:40～一位ガタワ 14:55～清滝小屋 15:15 (行動時間 8 時間 55 分)

11/24(日)

清滝小屋 06:50～両神神社 07:40～08:45 剣ヶ峰 09:10～前東岳～10:30 大キギ 10:45～11:15 前東岳 11:30～1510MP～1306MP～14:10 天理岳 14:50～1083.6MP～(尾根を下り登山道へ)～～16:20 日向大谷(行動時間：9 時間 30 分)

③概要

以前よりノーマルルート中心の山行を行ってきたが、そろそろ自分の行う登山の幅を広げてみたいと思い、吉筋先生にお願いして今回バリエーションルートの 1 つを歩く山行を実施するに至った。ジャンルとしては藪山・藪岩稜など、幾つかの案があったが、同行する M2 田中との調整の結果、藪岩稜のありまた吉筋先生のホームグラウンドともいえる両神山での実施とした。特に初日の辺見岳まで至る藪岩稜のルート、また大キギへと抜けるルートではバリエーションルートならではの、全身の体力やエネルギーを全て使って藪の中ルートを開拓してゆくことの大変さと同時に、独特の楽しさを実感することが出来た。また同時にルートファインディングの大切さと難しさを実感し、今後自身でこういったルートを歩く上での経験を多く積むことが出来て大変有意義であったように思う。

④本文

23 日の早朝、都内で吉筋先生と合流。関越道花園 IC 経由で日向大谷まで移動する。この一帯は都内から近い割には交通の便が悪いのでレンタカーを借りての移動となった。日の出間近の 06:00 前には到着したが既に駐車場には多くの車が入場しており、我々も最後の一台のスペースで何とかバス停横の駐車スペースに車を停めることが出来た。

ヘルメット・スリング等の支度をしてヘッドライトなしで歩けるようになった頃に出発。登山口への取りつきは少々道が分かりにくいので先生の案内の下で薄川への斜面を下る。登山道とは違い歩きにくい、注意してみればそこかしこに踏跡が見えて、それを辿ってゆけば良いのだろうと思う。10 分ほどで薄川の溪谷沿いに歩くようになる。紅葉と溪流の組み合わせが綺麗で、有名な場所以外にもこんなに景色が見事な場所があるものかと感慨深い。対岸に渡渉して少々歩くと腰越の滝。先生の HP で写真を確認していたが、思った以上にボリュームがあり、なるほど綺麗な滝だなあと思いながらシャッター

を切る。

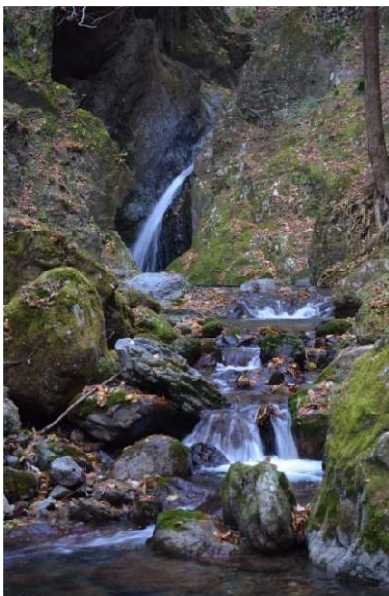
ここから少々引き返し、滝ノ沢下ノ滝まで沢伝いに歩いてここから一気に急斜面を登り尾根に出る。この登りは足元も悪く落石も何度か起こしそうになる。木の根など手掛かりになりそうなものを頼りに慎重に登って 725MP 手前で稜線に出た。ここからは踏み跡こそ殆どないものの大分歩きやすくなるので、学生が先頭を担当。しばし歩くと沢からの登りルートに見えるような踏跡が見えた。この先は辺見岳まで腰越尾根をひたすら登りつめてゆくのみなので、道に迷う心配はさほどないが、枝尾根等が合流しており紛らわしい場所もいくつかあった。725MP、900MP と幾つか目立つピークを越えてゆき、1010MP まで歩みを進める。ここから先は少しずつ両神山ならではの岩稜帯が姿を現す。1130MP 付近、1180MP 付近などには大きな岩稜帯があり、いずれも直登するにはややハードそう、ということでそれぞれ東面、南面を巻いて乗り越えた。こうしてスムーズに登ることが出来るのも、以前吉筋先生が登られていたコースだからでありバリエーションルートならではの苦労が思いやられた。ここからは少しずつ岩稜帯に加えて藪っぽくもなり、眼前に迫る木々の枝やらを掻きわけながらきつい岩稜を登ってゆく。どのルートが正解というものはないが、それでもここで一番楽に、かつ安全なルートを見つけ出す能力はやはり経験と場数がものをいうのだろうと感じた。1280MP 付近では地形を見失いそうになり、辺見岳直下のもっともきつかったように思われる登りを越えると突然展望地に出た。ここが辺見岳北峰。南からの斜光線を浴びて佇む両神山の姿が美しい。吉筋先生曰く、「この角度で両神山を望んだ人はそうそういないはずだ」とのこと。貴重な経験をさせていただいて有難い限りである。ここで昼食。



日向大谷バス停にて出発の準備をする。既に駐車場は大方埋まっていた。



薄川の溪谷に入る。紅葉と澄んだ水のあふれる沢との取り合わせが一興。



(左)腰越の滝

(右)滝の沢下の滝

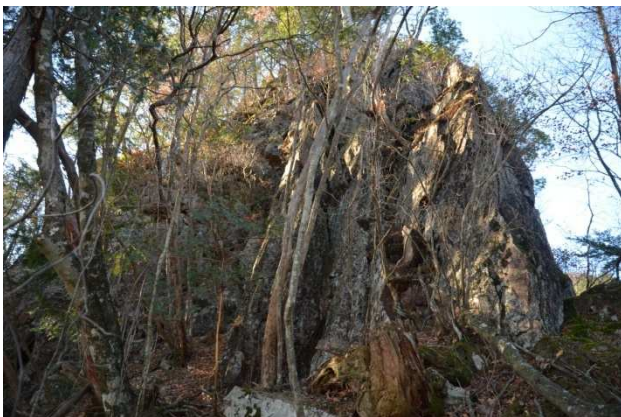
小さいがいずれも優美。しばし佇んで写真撮影。



下の滝付近から尾根までの急登。足元が悪く通過には苦勞を要した。



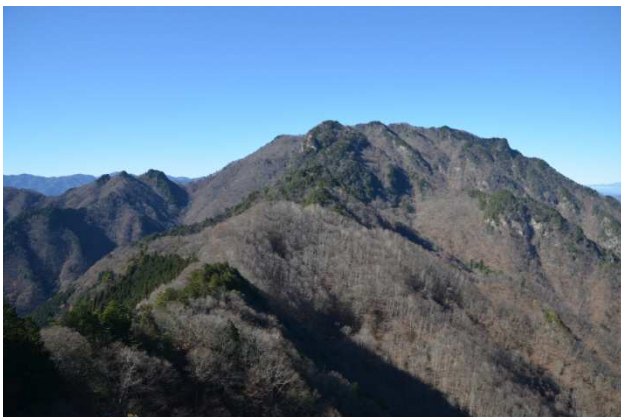
尾根は藪も少なく、細いので明瞭で歩きやすかった。



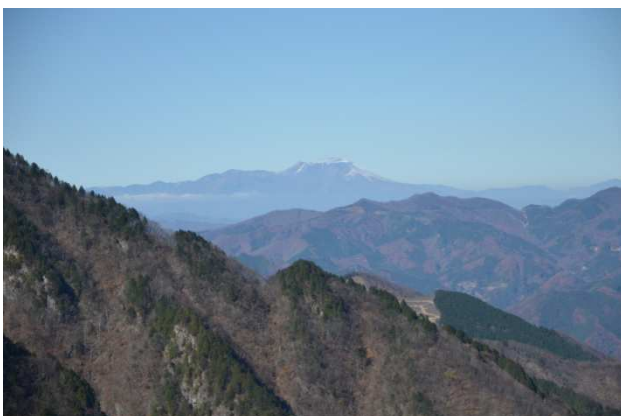
1180M 岩峰付近。直登は厳しいので左側を巻いた。その過程で改めて大きさを実感。



辺見岳手前は藪が濃くなり加えて岩稜も荒々しくなる。今山行最もきつかった区間である。



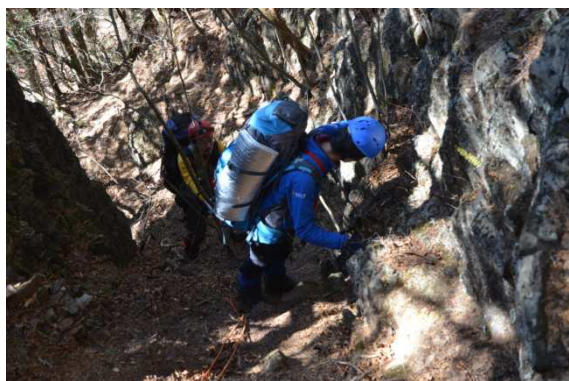
(左上)辺見岳より両神山を鑑賞。この山は 2 度目だが、ここからの展望は素晴らしいと思った。
(上)特異な岩峰が特徴的な二子山を望む。遠方には冠雪した。上越の山々が並ぶ。
(左)浅間山も両神山の右方に見えた。



1 時間ほど休息を取り、疲れを取ったあと、両神山に向けての尾根に向けて出発。辺見岳南峰を往復した後にはキワダ平に向けて出発しようとするも、間違えて白井差方面への尾根に降りかけてしまう。先生に指摘されて気がついたがバリエーションルートでは常にしっかりと読図しなければいけないと改めて反省。キワダ平に向けて、始めは岩稜帯とザレ場の急な下りが続く。足元が悪い場所や、難所と思われる箇所では先生がロープを出して下さり、それを頼りにして下る。高々5m 程度の長さのロープがいかに有難いものかを実感する。最後尾を歩いていた私はロープの回収を担当。上手く結わえることが出来なくて先生には手数を掛けてしまいました。緊急時の幕営場所として定めていたキワダ平付近では平坦地が広がり、水場が少々遠いのが難点ではあるが、なるほど幕営によさそうな場所であった。ここからエビヅルの頭までも、以前と比べ高度差はないものの何箇所か大きな岩稜を巻く場所があったりして苦労する。

2 時間ほどでエビヅルの頭に到着。ここでは 3 体の天狗の像が我々を迎えてくれた。写真を撮影したりしてしばし休息。なお、山と高原地図で表記されている当該個所は 1351MP を指しており、1410MP に相当するこの場所とは異なり、正確さを欠くようである。さて天狗と対面したは良いがここから三笠山に向けてのルートファインディングは難しい。正確には進路を南西に取るのが正しいのだが、つつい尾根を辿りたくなり、そうすると白井差方面への急峻な尾根に入ってしまう。これも自分ひとりだけなら果たしてルートを見つけられたかどうか、そう思いなが三笠山への登山返しを歩く。ここからは少しずつ踏跡も見えてきて 30 分弱で三笠山ピークへ。ここでも三体の仏像が我々を迎えてくれた。少々休憩して、清滝小屋へのルートのある一位ガタワへ。昔は清滝小屋からここを経由して産泰尾根を直登するルートもあり、その途中にあるコルとして要所だったようだが、今はいずれも廃道となっている。ここからは少しルートが分かりにくい道を先生の先導で下る。途中までは谷筋を下ってゆく形になり、そこから清滝小屋に向けてトラバース。トラバースの開始点となる場所ではペンキマークも残っていたが、そこからのトラバース道はやや不明瞭。それでも落ち葉が積もり、歩きにくい区間を 10 分も歩けば清滝小屋が視界に入る。15 時過ぎに清滝小屋に到着。幕営か小屋泊まりかで迷ったが折角なのでということで小屋泊まりに決定。昨曜日曜日の昼過ぎに訪れた際は無人だったのだが、土曜日夕方とあってか、すでに 10 名近くが休んでおり、またテント場にも何張かのテントが。宿帳を見てみると大方の宿泊客は日向大谷からここで 1 泊して両神山を往復するらしく、人気の高さを感じた。

小屋の水場は涸れていたもので、10 分ほど下ったところの弘法の井戸から水を汲む。夕食の支度をして 19 時前には就寝。軒のうるさかった方が小屋内にいたそうだが、そんなことは一切知らずに熟睡。



難所では先生持参のロープを利用して通過。ロープの有難さを実感した瞬間。



一転して明るい広葉樹林の広がるキワダ平。幕営にも適していそうである。



エビヅルの頭に向けての稜線。ヤセ尾根が続く箇所もあった。



エビヅルの頭では天狗トリオが我々を迎えてくれた。



三笠山への途中の道でエビヅルの頭を振り返る。特徴的な山容だ。



三笠山山頂では神々が我々を迎えて下さった。



(上)一位ガタワより清滝小屋に向けてのトラバース道。

(左上) ほどなくして一位ガタワに到着。ここにも数体の仏像が設置されており、信仰の山であると実感。

(右)清滝小屋から弘法の井戸へ下る。水量豊富で、調理の水にも困らなかった。



翌朝は 5 時起床。昨日に引き続き快晴で、小屋の温度計で氷点下 2 度ほどと、案の定寒かったが、小屋の毛布を寝袋の上に敷いて寝たこともあり思いのほか寒さは感じなかった。東の空に広がる朝焼けが綺麗だと思いながら水汲みをして出発。両神神社までの急登を越えて剣ヶ峰を目指す。途中で山頂直下に水場があるとの話の検証に先生が向かわれることになり、ルートを外してしばらく探すも、結局それらしいものは見つからず。それでも 9 時前には山頂に到着。去年も訪れた場所ではあったが、今年も快晴の下、四方に広がる山並みを見渡すことが出来て感慨深かった。去年はあまりじっくりと眺めなかった山座同定も今年はじっくりと。先生曰く「かなりマニアック」とのことだったがなるほど確かにアルプスや八ヶ岳などの山々は殆ど見えず山容と方角だけで山を同定しないといけないのはかなり難しかった。

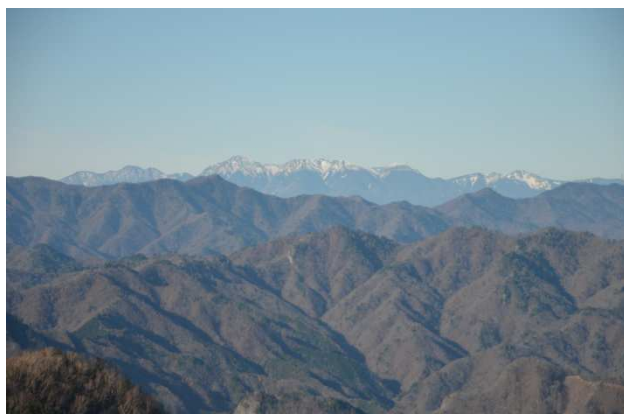
30 分弱の休息の後に、今度は大キギを目指して出発。幾つか連なる鎖場を下り、下山路とする天理尾根方面への登山道の分岐のある前東岳を少々過ぎたあたりで大キギへのルートへと入る。少々藪っぽいのが昨日のルートに比べれば随分歩きやすい。がしかしルートファインディングは難しく、大キギへと向かうコルに出るため少々慎重に歩く。15 分ほどして無事にコルに到着。左手側には急峻な沢が切れ落ちるような角度に下っているが、沢登りでここを登られる方もいるのだとか。ここからは初日に見たような藪岩稜を抜ける。途中一か所だけ稜線の東側から西側に乗り越えるポイントがあり、ここを見落とさないようにするのが大キギ登頂への要所とのことのお話。確かにここが弱点に見えるなどか思いながら西側に越え、一か所不安定な岩場があったのでここもロープを使ってクリア。しばし藪岩稜を力を入れて抜けると展望が良くなり、このあたりの脆い岩場を抜けて漸く大キギに登頂。先生と握手を交わす。逆光気味なのが残念だが、両神山・東岳が良く見えた。しばし休憩を入れたあとに再び来た道を引き返す。脆い岩場は M2 田中が結構ビびっているように見えたが、ここでのバランスの取り方が槍穂高のバリエーションルートの攻略に繋がるんだろうとかぼんやり考えながら、岩を斜面に押しつけるようにして下る。行きのロープ箇所を通過して回収し、再びコルを抜けて斜面を登り返す。入口付近で付けた目印のを発見しルートが間違っていなかったことを確認。登山道に戻った後、再び前東岳まで戻ってしばし休憩を入れた。



(左上)朝の清滝小屋。立派なたたずまい。

(上)両神神社付近にて。ここは狛犬ではなく、狛「狼」が神社を守っている。

(左)両上山頂より三国山・御座山の稜線を介して、八ヶ岳を望む。山座同定は難しかった。





八丁峠方面の展望。昨年はこちらから西岳・東岳を經由して両神山頂に立った。



南方面。中津川方面への稜線と、和名倉山、唐松尾山方面が見える。奥には富士山が顔を出す。



(上)大キギへと抜けるコル付近にて。この付近一帯だけは踏跡がはっきりしていた。

(右)難所はロープも使いつつ通過。左側は大きく切れ落ちている。



(左上)大キギより東岳を望む。頂上は地味だが、周囲から見るとひととき目立つ岩峰である。

(上)脆い岩場があるので慎重に下る。

(左)藪の中に入っても注意箇所は続く。コルに出るまでは緊張の連続であった。



前東岳でしばし休憩後、今度は天理岳へ向かう尾根を下る。入口には、「道が荒れているので通行禁止」との幕が掛かっていたが、現在も一応の登山道がある区間ともあり、昨日歩いたルートと比べても踏み跡は遥かにしっかりと置いて歩きやすい。両神山山頂で出会った人が天理岳は何か地図なしでも歩けましたと言っていたがそれも頷ける気がする。1580Mの肩付近では尾根が2本に分かれているがこれもテープなどで丁寧に誘導されており展望がない日でも迷わずに歩けそうである。この後1500Mのコルまではやや足元がザレて脆い所もあったが快調に進む。この付近は藪っぽい箇所もあり通過に苦勞する。1306MPからの尾根は深い落ち葉に埋もれ、足が見えない場所も。加えて急斜面を真っ直ぐ下るので何度も滑りそうになりながら慎重に下る。この付近を過ぎると一見等高線はなだらかに見えるが小さな登り返しが続く、ヤセ尾根や岩稜帯もあり慎重に通過する。やがて正面に平べったく伸びるピークが近づいてくると、これが天理岳。山頂へのルートはかなりしんどい急登と藪岩稜。だが昨日辺見岳の登りを歩いてきた身には随分楽に感じられた。やがて小さな祠と展望地のある場所に到着。ここが天理岳だ。

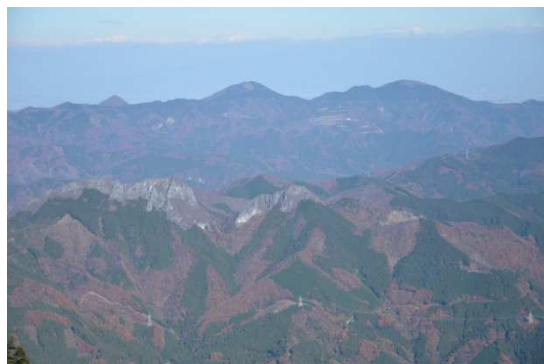
時刻は早くも14時を過ぎてしまった。ここ天理岳山頂からは、両神山を素晴らしい角度で眺めることが出来るのだが、この時間では丁度逆光となり、シルエットになってしまうのが残念だが、取りあえず写真撮影。少々ゆっくりと休憩したい所ではあるが、日の短いこの季節、あと2時間も歩けば日没迫る時刻となるため、先生の判断で奈良尾沢峠まで出るのではなく、1083.6MP手前の尾根を下り、途中で沢沿いのルートへと下ってからノーマルルートへと下降することに決定。

頂上直下の藪を漕ぎ分けて鎖場を1本抜けて、再び踏跡の存在をそこはかとなく感じるルートを下る。右からゆるい尾根が接近してきたと思えた場所があり、そこから少し歩くと目指していた尾根への分岐点に到達。良く見ると登山者向けのようなテープが幾つか連なっている。これを頼りに鬱蒼として薄暗い人工林の中を下ってゆく。始めは途中で尾根を外れる予定だったが、テープの誘導が丁寧だったのでそのまま下ってゆくことにする。尾根には何ヵ所かの分岐点があるがそこにも丁寧な誘導が付いている。登山道に近づくにつれ等高線が密になり、足場の悪い場所が続いたが、やがて登山道が見えてくるようになり安心する。登山道と合流したのは15:50頃。ここからは以前も訪れたことのあるノーマルルートで足早に日向大谷を目指す。バリエーションルートと比べると、ノーマルルートはまるで高速道路みたいだね、との吉筋先生のコメント。確かにそうだなあと感じながら歩くこと20分ほどで日向大谷に無事に帰ることが出来た。無事に日没前に帰ることが出来て一安心である。

この後は吉筋先生お勧めの温泉に浸かって2日間の疲れを癒し、途中食事休憩を挟みながら都内へと帰還。初めてのバリエーションルートでの山行ともあり、特に初日はルートを歩き切ることに全力を使ってしまい、ルートファインディングなどを少々疎かにしてしまった点は少々反省であるが、それでもノーマルルートだけを歩く登山とは違い、ルートファインディングや読図など理性的な面と自分の体力や感性を頼りにルートを見つける直感的な面を併せ持つ、バリエーションルートの面白さを垣間見るものの出来た2日間であった。

(右上)ルート上より二子山・その向こうに上州の山々。

(右下)藪っぽい箇所も幾つかあるので、慎重に通過。





1500M のコル付近より大キギ(中央上)と小キギ(中央下)。小キギは登りづらそうである。



1306MP 過ぎの下りは落ち葉の絨毯となった急斜面を下る。



天理岳が近づいてくると幾つかの岩稜帯が。



天理岳山頂より両神山方面。逆光が残念である。



(左上)天理岳山頂はやや狭いが、小さな祠が安置されている。
(上)急斜面の尾根を下り、ノーマルルートを目指す。踏跡はさほどはっきりしないが、テープなどの誘導はしっかりしていた。
(左)ノーマルルートに出て、無事に登山口に到着。日没に余裕をもって下山することが出来た。